2日目午前

クリップ追加

2008/9/11(木) 午後 6:38　無題　練習用

0

写真：上より、フランクルのお墓、フランクルのお墓を囲んで、ベートーベンのお墓

ウイーンについての2日目。夕べ寝たのは午後10時頃。しかし、何となく朝の3;30頃（日本時間で言えば10:30頃）にはぼんやりと目覚めてしまい、寝床でごろごろしています。同室の息子も4:00には起き、朝風呂です。だんだんお腹もすき、6:45にはホテルの朝食（日本で言うバイキング方式）に向かいました（日本で言えばお昼直前ですね）。

４－５種類のパン、またウィンナーソーセイジ、ベーコン、ハム、これまた数種類のチーズ、果物、サラダ野菜、シリアル、各種ジュース、各種コーヒーなど、目移りするばかりです。朝食会場では時間差で次々と皆さんに会い、食欲旺盛、皆お元気そうです。

さて、体力、気力充実し、10:00にフロント前横のロビーに集合。昨日ミュンヘンから駆けつけたKさん、ホームステイされていたMさんが加わり、KK先生以下23名が勢揃いしました。KK先生から、今日の午前中は、フランクルのお墓参りに「中央墓地」に行き、午後にはルーカス先生との面会のため
Perchtoldsdorfへ行きますよ、という予定についての説明があった。いよいよ最初の公式行事である。

さて、ホテル前の地下鉄駅(Pilgram通り駅：U4路線)から総勢23名ご一行様、はぐれず、落ちこぼれず、目的地につかなければなりません。K.K.先生・M.A.さんの指示の下、活躍したのは、引率隊長のT.K.さん、M.N.さんである。的確な指示により、Landstraβe(City Air Terminal)でS7（快速電車路線）に乗り換え（皆さん、あと5分ほどで船がでるぞ・・ならぬ、次の列車がでますよ！早く！・・・23人中の最後尾の方々は、ひゃー、ばたばた・・、とランニング）、一路、Zentralfriedhof駅へ。

途中、この快速列車の座った車内にハチが迷い込みました。私とM.N.さんは、刺されはしまいかびくびくしたのですが、通路をはさんだ反対座席に座っていた美しい女性がハンカチではたき落としてくれました。間の通路で気を失っているハチを、われわれに足で踏みつぶせ、と指示する女性。しかし『ん一、いまからお墓参りだしな・・、その前に殺生するのも何だしな』と急に敬虔な仏教徒（？）になり、ちり紙でハチを包んで手に持つことにしました。このことに女性はあきれた様子でしたが、程なく、駅に着き、そこでハチをすばらしい青い空に逃がしたあげたら、電車の中に残った先ほどの妙齢の女性もにこやかに手をふっておりました。ん一、幸先いいぞ！

さて、駅員さんもいない駅をおりて通りに出ると、向かって左には中央墓地の趣のある煉瓦塀がずっと続き、右側は道路と先ほどのS7線が走っています。この塀沿いにおよそ５－６分歩き、11番ゲートから入りました。入ってすぐのところに地図看板があり、K.K.先生から「フランクルのお墓はユダヤ教徒のお墓の地区なので、（看板地図の）この部分なんだけど、それは実際にはどこだろう・・？　ん一、はてさて」。ゲートの所には守衛さんがいて、M.A.さんが聞いたところ、なんとその地区は、ほんの20mほど、墓地の中を駅方向に戻ったところでした。まさに、すぐそこにフランクルのお墓があったのです（こんなに簡単にお墓が見つかるなんて！　きっとさっきのハチの恩返しだ！？）。

さて、フランクルのお墓の前や近くに集合したわれわれは非常に敬虔な気持ちになりながら、お墓をじっと見つめておりました。お墓は、フランクルの母方のリオン家のお墓でそこにフランクルは埋葬されています（お墓の台座などには小さな石が積んでありました。そういう習慣があるんですね！）。奥さんのエリーさんはキリスト教徒なので宗教上の伝統によって、同じお墓には埋葬されないとのこと。でもそのことに対するフランクルの思いは、「人生があなたを待っている(2)」の507-508頁をご覧下さい。

K.K.先生をトップに、一人一人が順番に、フランクルのお墓に手を合わせました。ロゴセラピーのたいまつをかかえた一人一人が、各自の責任を改めて自覚した瞬間ではなかったかと思います。お墓の写真をアップしましたので、旅に行かなかった方々もどうぞ拝んでください。そのあと、フランクル先生を囲んで、皆で記念撮影をしました。きっとフランクル先生も喜んでおられたのではないかと思います（写真）。

お墓参りを終えた後、時間がまだあったので、この中央墓地に眠る偉大な音楽家達（ベートーヴェン、ブラームス、シューベルト、ヨハンシュトラウスなど）のお墓にも（苦労の末）たどり着き、手を合わせてまいりました。ん一、観光客！！（写真。皆さんもお楽しみ下さい！）

それにしても日の当たるところの「真夏の暑さ」と木陰の涼しさを味わった半日でした。

ほぼ正午頃に中央墓地を後にして、一路、ルーカス先生のお住まいのPerchtoldsdorfをめざして、再度快速電車に乗り込みました。途中乗り継ぎ時間が１分間しかないというハラハラドキドキの駅があったのですが、K隊長のもと事なきを得ました（乗り継ぎは降りてすぐの反対ホームでした、あーよかった）。では、午後の部は、また次の担当の方々へお任せいたします。どうぞ・・。（H.Y.記）